

さくら会*会報

2013
VOL.3

第3号

ご挨拶

植草学園さくら会 会長 小林 鶴枝



植草学園さくら会会員の皆様には、益々ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

日頃は、植草学園さくら会の活動に、ご協力とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

また、約二年前の東日本大震災に伴い深い悲しみと、いまだ先の見えない被災地の皆様に心からお見舞い申し上げます。

本会は設立3年の若い組織です。しかしながら創立108年という歴史ある植草学園の各学校を卒業した誇りある同窓生が、卒業校や地域そして年代を超えて集える唯一の場と言う非常に重要な組織です。平成24年度には、植草学園大学の第1期卒業生の同窓会活動がスタートいたしました。設立早々活発に活動されています。本会は新たな会員をお迎えし、更に活気を増した1年を過ごしました。

さて、毎年恒例となりました植草学園さくら会企画「大抽選会」を、大学・短大の縁祭で行い、75,210円の売上金を

植草学園教育研究振興基金に寄付いたしました。植草学園に学ぶ学生、生徒の皆さんのために役立てていただきます。

寄付金につきましては、理事長の

植草 昭 先生より、植草学園さくら会にご丁寧なお札状頂戴いたしました。また、昨年度の寄付金につきましても、大学・短大の環境整備、高校の環境整備、学生・生徒の奨学金等にご活用いただいた実績報告もいただきました。ここに謹んでご報告申し上げますとともに、今後とも会員の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後に母校植草学園と同窓会連合組織 植草学園さくら会のますますの発展を祈念し、会員の皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

植草学園さくら会「さくらホール」の由来

学校法人 植草学園 理事長 植草 昭



さくら。桜の花は春の到来を知らせ、日本人が富士山と共に愛し続けた花であります。

植草学園の教育一路に歩んで来た道のりを植草範子が「ひとすじの道をたどる」に詳細を書きましたが、小倉キャンパスとの関わり合いは、発展をしていく過程で校地拡張に色々苦労した結果、この小倉町の雑樹林約一万平方米を昭和三十七年頃譲り受けたのがはじまりです。

そしてこれを運動の用地として整備し、その後高等学校の運動場として更に三万平方メートルに拡張しました。同時に千葉市に開発行為申請し、正式に整備に取りかかった時、文化財の調査とみどりの課による樹木を数百本植樹することをすすめられ、その御指導を受けました。そして、何の木にするかの選定にあたり、学校関係者が検討を重ね、「桜」と定めました。千葉市と園芸の専門家の御指導で、桜の苗木を植えました。その後、短期大学・大学と増設するに伴い、土地は七万平方メートルとなりましたが、その都度桜を植え続けました。

今や桜は、植草学園のシンボルとして大きく育ち、学園の

発展と学生・生徒の成長を見続けてくれています。これは、小倉に学園の地を求めて以来からの地域の方々、役員や先生方、PTAの方々や在校生、卒業生・同窓会の方々の真心があつたお陰です。

新入生を迎える頃、桜いっぱい何と美しいキャンパスかと思います。特に図書館棟のさくらホールからの眺めはすばらしいです。そこで「さくらホール」と命名しました。

今、閉校となった植草文化服装専門学校、植草家政高等専修学校、そして植草幼稚教育専門学校の卒業生の皆様に対して植草学園大学学長の小出進先生は、小倉キャンパスは皆さんの実家です。とおっしゃいました。私は正に名言であると思います。

私は植草学園の全同窓会が「植草学園さくら会」のもとに仲よく発展してくれることを信じ、期待してやみません。

植草学園大学

同窓会活動の、さらなる発展を願って

植草学園大学 学長 小出 進



今年も、大学4年生ー卒業生のほぼ全員の皆さんと、学長室で、手作りのケーキをいただき、紅茶をちょうだいしました。

いろいろなことを話し合った後で、本学のキャッチ・フレーズについて考えました。まず、本学の植草学園らしさについて考え、まとめてみました。植草学園らしさとして、つぎの五つのフレーズが考えられました。

- その① 明るい挨拶、飛びかう植草学園。
- その② 仲間や先生と心の通う植草学園。
- その③ 思いやりに満ちた、やさしさいっぱいの植草学園。
- その④ 障害や困難性のある人も、ない人も、共に生きる植草学園。
- その⑤ 一人ひとりの、那人らしさが輝く植草学園。

同窓会活動の、さらなる発展を願い、挨拶とさせていただきます。

会長挨拶

植草学園大学同窓会 会長 西川 嘉人



皆様こんにちは。植草学園大学同窓会会長の西川嘉人です。今年度は同窓会の発足年度ということで、同窓生の人数が少ないのでもちろん、役員の人数も非常に少ない中で活動をしてきました。活動にあたっては、さくら会や短期大学同窓会の皆様をはじめとする学園関係者の皆様方に多くの助けをいただきました。皆様の暖かさ、学園の絆に感謝の連続でした。活動自体は初年度ということもあり、微々たるものではありました。特に12月1日に行われました職場を語る会では、私たちの予想を超える人数の方々に集まっています。充実した活動が出来たと思います。反省点も多々ありますが、今後より一層皆様の期待に答えられるように新年度を迎えていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

第一回 同窓会総会

5/12

植草学園大学同窓会の記念すべき初めての活動が行われました。役員も同窓生も新しい環境になってすぐの総会であります。なかなか大変ではありました。皆さん忙しい中、ご協力をありがとうございました。ありがとうございました。今後もご協力をお願いします。



オープンキャンパス参加

8/18

オープンキャンパスでは同窓会で質問コーナーを設け、大学での生活や授業についての悩みや疑問に答えました。なりたい職種・入りたい学部ごとに役員を配置し、どんな小さな悩みでも答えられるように準備をしました。コーナーに来られた生徒さんに、希望する職種についての説明や、大学でどのようなことを勉強するかなどについてお伝えしました。中にはまだ高校2年生と、1年以上先のことを見据えてオープンキャンパスに参加している方もいました。少しでも彼らの力になれたなら幸いです。



植草学園大学同窓会発足記念講演会

12/1

大学同窓会の発足を記念して、今回は短期大学同窓会の皆さんと合同で二部編成での職場を語る会を行いました。私たち大学同窓会は第一部の講演会を企画し、漫画家の愛本みづほ先生と、理学療法士の大山隆人先生をお迎えして約90分の講演を拝聴しました。

愛本先生

『だいすき!! ゆずの子育て日記』の漫画を描く中で関わった障がいを持つ方々のお話や、ご自身の変化などの具体的な話を同窓会役員の池田まどかさんとの対談形式で話してくださいました。

先生紹介

愛本みづほ先生 (漫画家)

1987年に漫画家デビュー。2005年から連載していた『だいすき!! ゆずの子育て日記』は障がいをもつ親の子育てについて漫画を描いたものである。



大山先生

『患者様とのコミュニケーションについて』という内容で、特に挨拶の大切さ、その方法、意味について詳しく教えていただきました。途中にデモンストレーションで体を動かす機会もあり、非常に和やかな雰囲気で話が進み、勉強になりました。

先生紹介

大山隆人先生 (理学療法士)

佐倉市にある西川整形科で勤務。理学療法を行ううえでメンタルケアの必要性を体感し、現在ヨガセラピストの資格取得をめざしている。



とてもためになりました。
自分の中でさまざまな感情を感じることが出来てよかったです。

このような話を聞ける機会は
あまりない。これからの自分に役立つ話だった。

医療関係の方の話は自分にはわからないだろうと思っていたが、職種を超えて大切な話が聞けた。

緑栄祭～さくら会合同企画～

11/20
21

11月20、21日に『第12回植草学園大学、植草学園短期大学緑栄祭』が開催されました。さくら会は20日に参加し、第2回合同企画「bingoゲーム大会」を開催しました。その日の天候は生憎の曇りのち雨で非常に寒い一日となり、800枚全てを完売させる予定でありましたが、一般の方・学生の参加が少ないことも予想され、販売数も少ないと思われました。しかし、二人一組で一生懸命に売り歩いた結果、620枚

という枚数の抽選券を販売することができました。

去年、今年と生憎の雨でしたが、前年を上回る抽選券を販売することができたことと、一般の方、学生がワクワクしながら、楽しく活動できたことがよかったです。

来年こそは快晴の中で皆様が盛り上がり楽しくできるようなものになればと考えております。



いろいろと活動してくれた役員より一言！

(西川) お疲れ様でした。みんなの頑張りが今後よりよいものになりますように。

(鏡味) 今年度は学ぶことが多かったです。皆様に役立つような企画を考えていきたいと思います。

(池田) 大学院の実習日程という非常に忙しいものと戦いながら役員を頑張りました！

(松下) 次年度は役員としてもっと活動に参加して人数を集めたい！

(塚瀬) 活動に参加できないときもありましたが、その分も参加できるときは一生懸命頑張りました。

植草学園短期大学

同窓会会報に寄せて

植草学園短期大学 学長 中坪 晃一



在学生が実習先で、幼稚教育専門学校を卒業された大先輩の方々に「お世話になった」「親切にしてもらつた」ということを報告してくれる方がよくあります。短大の両専攻の先輩達も、実習先で様々な支えをしてくれます。こんなところにも、学園の一体感が感じられ、嬉しくそしてありがとうございます。

今年も、在学生対象の「職場を語る会」、「オープンキャンパス」での入学希望者への相談活動等、様々なお力添え・ご協力をいただいております。縁発祭では、「さくら会」主催「大抽選会」の収益金を、後輩たちのためにご寄付もいただきました。心からお礼申し上げます。

折々に顔を出していただけると、学園全体が元気になります。是非お運びください。楽しみにしております。

※お願いです。短大専攻科介護福祉専攻は、保育士資格(養成校卒業)をおもちの方を対象に、1年で、介護福祉士資格が取得できる専攻です。関心をおもちの方がおられましたら、ご案内いただければ幸いです。

会長挨拶

植草学園短期大学同窓会 会長 金久保 利一

植草学園短期大学同窓会会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。会長の金久保利一です。

本年度より同窓会総会を5月に開催することにいたしましたが、当方の手違いにより皆様への通知が遅れ、ご迷惑をおかけいたしました。申し訳ございませんでした。

また、さくら会合同企画は残念ながら天候に恵まれず2年続けて体育館での開催となりましたが、昨年以上の成功を収めることができました。皆様のご協力に役員一同心より感謝しております。

短大同窓会では、卒業生が気軽にキャンパスに訪れ、活用してもらいたいと思い、日頃の悩みや思い、疑問等を打ち明けられる場として、本年度も4月、5月、12月に職場を語る会(ミニ・ホームカミングデー)を開催いたしました。特に12月は植草学園大学の同窓会発足を記念して、大学と短大で合同企画を開催いたしました。25年度総会は5月18日(土)を予定しています。

今後も短大同窓会では、同窓生の「生の声」を聴き、同窓生のためになるような活動を続けてゆきたいと思っていますので、ご協力をよろしくお願ひします。



～植草学園大学・植草学園短期大学合同企画～

植草学園大学同窓会創立記念講演会・職場を語る会

平成24年12月1日

植草学園大学創立後、最初の同窓会が設立されたことを記念して、大学・短期大学合同で催しを企画したところ、多くの参加者が集まり記念講演に相応しい1日となりました。第1部では講演会を開き、講師に漫画家の愛本みづほ氏(「障がい者の子育てについて」)、理学療法士の大山隆人氏(「患者様のコミュニケーション」)をお迎えして貴重なお話をいただきました。



講演を聞いた学生からは「実際の体験談で勉強になった」「これから行く実習や仕事に是非とも役立たせたい」との声がありました。

第2部では短期大学同窓会役員による「職場で使えるゲーム・ダンス」という内容で、体を思いきり使って参加する楽しい時間となりました。幼稚園・保育園・特別支援学校でも人気があり、介護現場でも使える“NAMINAMINA!”のダンスを気持ちよく踊りました。はじめは「恥ずかしい!」「難しい!」という声が聞こえてきましたが、終わった後には多くの方が「楽しかった!」と言つてくれました。実際に現場で役立てていただきたいと思います。

平成25年4月20日(土)に短大主催の「職場を語る会」が行われます。そこでも“NAMINAMINA!”と“タキオのソーラン節”的ダンスを予定しております。多くの方のご参加を心からお待ちしております。



平成24年度
卒業生の話を
聞く会

～卒業生が語る～就業力に繋がる体験談 平成24年7月18日・7月25日

今回も計2回の開催で多くの方々に参加していただきました!就職している方、進学された方合わせて15名(卒業生)の実際の体験談を聞いて、在校生の不安も解消されたのではないかと思います。在校生だけでなく卒業生にとっても、自分を振り返る大切な時間になったのではないでしょうか。講師を務めて下さった卒業生から貴重なメッセージをいただきました。これから多くの卒業生の皆さんに講師として参加してもらいたいです。



「卒業生の話を聞く会の講師を体験して」 第10期生 小田桐 恵美さん

7月25日(水)に開催した「卒業生の話を聞く会」では、保育園・幼稚園・施設・特別支援学校などに就職し現場で活躍している卒業生と専攻科や大学に編入学した卒業生の話を在校生全員が聞きました。

私は幼稚園への就職を希望している皆さんの前でお話をし、たくさんの質問をもらいました。保育現場に対してとても興味や関心が高く、発言する一人ひとりが大変生き生きして

いるように感じ、学ぼうとする姿勢が印象的でした。終了後、何人かの方から「私も先輩のような幼稚園の先生になりたい」とか「頑張ってください」と声を掛けていただき、大変パワーをいただきました。今回の経験を通して、自分の保育を振り返るきっかけとなり、更に今後も子どもたちのために頑張っていこうと思いました。

職場を語る会にて講師をされた卒業生の話 平成23年12月3日

「介護現場で大切にしたいこと」 第2期生 今井 薫さん

団塊の世代が高齢者に突入し、認知症の人口は今後も増すばかりです。その対応として、皆さんには学校で学んだ以上に、積極的に研修会に参加し対応能力を高めて頂きたいです。自分たちでは気付かずしていた日常の間違った対応で、問題行動を起こさせたり、生命の危機を招くこともあります。

認知症は不治の病ですが、その方の心と身体の情報を正しく把握し、その方の心に添った対応をしていくことで、進行を遅らせたり、毎日を明るく過ごしていただくことが可能です。

「認知症」と言うことでひとくくりせず、ゆっくりと心の声を聞きながら普通に暮らすこと。認知症介護は奥が深く、日々いろいろな気付きを教えられます。高齢者の明るい表情を見る時、大きい喜びを感じ、自分の介護観も確立できます。

どうぞ皆さん、研鑽を重ね素晴らしい介護福祉士になられることを願って止みません。

平成23年度
職場を語る会

平成24年8月18日実施 オープンキャンパス

相談コーナーで同窓生が高校生を対象に大学卒業後の進路に関する相談を担当しました。今回は相談に来られた人数や質問が多くなったこともあり、各学部の簡単な説明を中心に高校と大学の相違点、私たちが感じている学校の印象などをお話しさせていただきました。

介護士の先輩からは「自分の夢を持ち続ける」ことの大さや「人の心に寄り添う心、人を敬う気持ち」について実際の経験に基づきながらお話をありました。

高校生たちは「今日、相談コーナーに来られて本当によかったです。この学校で自分の夢の第一歩を踏み出したいです」と力強い言葉を残していました。



リカレント教育を始めました

福祉学科長 布施 千草

短期大学ではリカレント教育をはじめました。リカレント教育とは耳慣れないことばかもしれません。生涯教育を受けて発展した概念で、「職業能力向上となるより高度な知識や技術、生活上の教養や豊かさのために必要な教育を生涯に渡って繰り返し学習する事を意味する。これには、仕事に就きながら必要な知識や技能を修得する教育訓練を行うOJT、仕事を一時的に離れて行う教育訓練(OFFJT)も含まれる」と事典に書いてあります。

具体的には、地域介護福祉専攻卒業5年以上の方を対象に、本学で行う訪問介護員養成、実務者学校(実務経験者が国家試験受験資格を得るために通信課程)の講師育成事業があります。

久しく開かなかった教科書を読み、授業案を作成することは自分の介護を再構築する機会となります。他の人に自分の介護に対する思いを伝えることで、改めて自分自身気づくことが多いことでしょう。どうぞその時期の方は臆せず、チャレンジしてください。我々教員が優しく、厳しく指導いたします。



編集
委員より

今回の会報内容を決定するにあたり、同窓会役員一同で話し合いながら、どうすればより良いものを同窓会の会員の皆様にお届けできるかを、常に念頭に置いて今まで製作を続けてきました。企画を考える上でまだまだ検討の余地があるものもあり、会員の皆様のお力添えがなければ同窓会は成り立ちません。今後も同窓会での活動を通して皆様と意見交換をしながら、さらに良い同窓会づくりを目指してまいります。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

植草学園さくら会会報編集委員 横山公彦 池田直輝

共学部がスタートします

植草学園大学附属高等学校 校長 植草 完

同窓生の皆様にはお元気でご活躍のことと存じます。前号では、昭和54年の高校開設からの校名変更や科・コース・クラスの変革、海外修学旅行など高校の歩んできた跡をたどってみました。

33年間にもなりますと社会情勢、政治情勢、経済状況、世界情勢など色々な変化があり、学園としても服装専門学校・幼稚教育専門学校の閉校や植草学園短期大学・植草学園大学の開学など時代の要請に応え大きく変革してまいりました。特に近年、グローバル化する国際社会を反映して、日本社会でも価値観や考え方の多様化が進みました。価値観の多様化と共に、中学校・保護者・卒業生など本校をご支持いただく皆様から寄せられるご要望もまた多様化してまいりました。中でも共学化については、平成11年の短大が共学で開学した時から寄せられるようになりました。しかし、女子教育で定評をいただいてまいりましたので、その充実と発展による入学者の確保を目標に努力してまいりました。お陰様で、部活動の活躍や国公立大学や難関私大への進学状況など大きな成果も上げております。その成果が評価されるとともに、男子にもその教育をという声もまた寄せられるようになりました。

この間、平成20年には大学も開学し、翌年には校名も植草学園大学附属と変更しました。大学・短大の特色ある内容は全国的に高い評価

をいただいております。学園として大学・短大を備えた大きな学園への変革をしている中で、高校としても更なる発展を期して共学部をスタートすることに致しました。英語科・特進コースという非常に特色ある科・コースを対象にしましたのは、その特色を理解し、そこで頑張ろうという強い意欲を持った生徒に集っていただくことにより、より成果を上げることになると期待してのことあります。教職員一体となって取り組んでまいります。ご期待下さい。同窓の皆様からの温かい御支援をお願い申し上げましてご挨拶と致します。

※高校入試で同窓生推薦制度があります。学園同窓生(高校だけでなく大学・短大はもちろん、幼専や服専も対象です)の身内の方を積極的に受け入れようと考えています。

詳細についてはお問い合わせ下さい。



卒業生母校訪問

山本知佳さん 卒業時A組 福祉藤原クラス

現在船橋市立船橋特別支援学校で勤務中の山本知佳さんが、母校のタイアップクラス生徒を対象に講演してくださいました。山本さんは大正大学の人間福祉学科を卒業後、特別支援学校教員の免許を取るために千葉大学の特別専攻科で1年学んだあと3年間公立で非常勤講師として勤務され、昨年から専任として勤めているようです。特別支援学校の教員を目指したのは、高校時代の恩師藤原先生の影響が大きいそうで、高校卒業後もよく尋ねていらして相談されていたそうです。藤原先生の「(教職を)取れるなら取ってみたら?」の一言が今日の山本さんを作り上げたそうです。在学中もボランティア活動に積極的に参加していた山本さん、卒業時にはライトブルー賞を受賞されました。

山本さんは障害のある子どもたちが自立して生活していくことを目指し、今日も奮闘しています。そんな山本さんの言葉は高校生のみなさんにどう届いたでしょうか。

後輩からの質問を受ける山本さん



山本さん、恩師の藤原先生と 講演風景



第3号の発行となりました。これもひとえに同窓生みなさまのおかげです。ありがとうございます。
今回クローズアップされた山本さんのように、社会で活躍されている先輩が生徒の前で講演してくださることは生徒の励みとなり良きお手本になります。みなさまもよろしければ近況報告とともにご連絡いただければ幸いです。またさくら会会報高等学校編では、みなさまからの記事のアイデアを募集しております。ご協力ください。

植草学園さくら会会報編集委員長 木村昌代 編集委員 竹村美紀・石澤紗央里

植草学園幼稚教育専門学校



右 副会長小笠原さん、左 同 小向さん



植草幼稚教育専門学校同窓会 会長 石川 明子

卒業生の皆さん、お元気でいらっしゃいますか。平成24年度より、会長を務めることになりました6期生石川明子と申します。歴代の会長さんの面々を振り返ってみると、初代1期生伊藤会長、長年務めてくださった3期生佐藤会長、4期生鈴木会長、13期生小林会長と素晴らしい方ばかりです。幼専は短期大学に統合されましたが、以前と変わらず同窓会が存続しているのは顧問でいらっしゃる植草範子先生、黒田静江先生の支援と同窓会を守つてくださった歴代会長はじめ役員の方々、そして同窓会のみなさんのおかげであると心から思っております。前会長小林さんは「さくら会」会長ですが、日頃から「さくら会」のことと同時に幼専の同窓会にもお力を注いでくださり心強いです。微力ではございますが、先輩から引き継いだ会長の役割を役員と力を合わせ、精一杯努力し務めたいと思います。

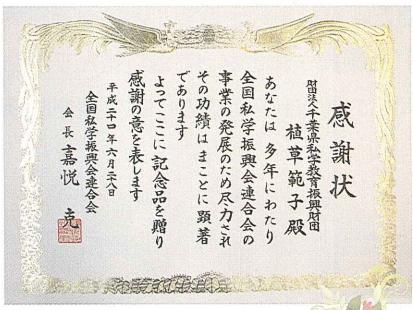
幼専の卒業生のみなさんのことをいつも気にかけてくださっている、私たちの「母」である範子先生が永年にわたり千葉県私学振興財団理事として私学振興に尽くされた功績が認められ、平成24年6月に「全国私学振興会連合会功労者表彰」を受賞されました。この年度では全国で6名の方が受賞しました。

また範子先生は、会報2号と共に植草学園の歴史や教育への熱意などたくさんの思いの詰まった「ひとすじの道をたどる」のご著書を卒業生全員に寄贈してくださいました。今年度の同窓会に参加してくださった方の中には本を読まれ、久しぶりに範子先生にお会いしたいという思いの方も多かったのではないでしょうか。

早いもので植草学園の同窓会が一つになった「さくら会」が創立されて3年目が過ぎようとしています。平成24年度には植草学園大学の1期生が会員となられ「さくら会」はこれから益々大きくなっていくことでしょう。喜びの気持ちと同時に急に幼専が恋しくなり今までの「摇籃」を読み返してみました。お世話になった先生方や同窓会の様子などがとても懐かしかったです。幼専という温かな環境の中で、私たちを見守り育ててくださった先生方に今さらながら感謝です。

会報2号で同窓会存続のための寄付のお願いをさせていただきましたが、是非とも引き続きご協力お願いいたします。そして、同窓会にはたくさんの卒業生の方が足を運んでくださることを願っております。

最後に皆様のご多幸とご活躍をお祈り申し上げます。



植草範子先生
受賞 おめでとうございます。



平野 恭子先生

皆様、おかわりございませんか。

幼専で講師をしておりました平野です。

編集委員の出木さんから、原稿依頼の電話。その声に幼専でのことが思い出され、温かい気持ちや幼専パワーが伝わってきました。

3.11のこと。今も心の中にとどめ、微力ですが支援を続けています。継続が大事です。

震災直後のことです。保育所で報道カメラが、不安でこわばつた人々を前に「笑顔」で話をし、指示を出す保育士をとらえていました。その後、「先生の笑顔で落ち着いたよ」「我に返り、ほっとした」と話す人々。笑顔パワーを改めて確認しました。

笑顔は苦手。つくりわらいしてもねえ~。

いえいえ。笑顔は型から入ってもいいのではないかでしょうか。

口角をあげて、にこっと。

笑顔を前に子どもや親は安心し、その顔が皆さんの笑顔をさらに素敵にしていくのでしょうか。

私は父の事故で仕事をやめ、昨年暮れ、亡くなるまで介護をしていました。ふと鏡を見ると沈んだ顔をしている時がありました。その時は、あえてにこっと微笑みます。それだけで優しい気持ちになれました。幼専で皆さんと、そして子ども達と共に過ごしたおかげと感謝しています。

どうぞ、これからもお元気でご活躍下さい。また、お会いしましょう。

PS:「アンテナ、立ててよ」天国からの岩野先生の声、聞こえますか?



今も変わらず素敵な平野先生

24年度第39回同窓会

平成24年11月17日(土)『同窓会(総会・懇親会)が行われました』

「縁栄祭」での開催が恒例となった幼専同窓会には、1期の先輩から35期最後の卒業生までと、幅広い年齢の方々が参加してくださいました。範子先生をはじめお世話になった先生方を囲んでの懇親会では、昔話やそれぞれの近況報告に花が咲き、楽しい時間はあつという間に過ぎていきました。

小倉キャンパスに場所を移しても、「幼専」の温かさを味わえる同窓会です。
これからも皆さんのが参加お待ちしています!



懇親会の様子…お菓子をいただきながらのおしゃべりタイム



返信葉書が届きました!



参加してくださった皆さん、ありがとうございました!

「植草学園さくら会」に寄せて

旧植草幼稚教育専門学校 校長 植草 範子

植草学園とさくら会の関係については理事長の寄せられた文をご覧いただき、永い植草学園の歴史の流れの中でさくらを植え続けた経緯がお解りいただけたと思います。

私はその中で一つのエピソードをお伝えします。この小倉の地に最初に入ったのは文化女子高校体育コースの生徒達でした。

殆ど人の動きのないような土地で生徒達は生き生きと活動し、未だ整っていなかった周辺の道路を真心込めて清掃し続けました。

その誠実さに地域の方は目をみはり、学園との良い交流をもたらしました。地主さんたちは、先祖伝来の大切な土地を教育活動に生かすことに理解を深め、心よく譲って下さり次々と校地は拡張してきました。学園はその都度感謝を込め桜を植え続けました。それが今立派に育ち、小倉キャンパスは美しく清々しい気品の高い幽玄な桜名所となっています。

桜の花は一輪でも清純で美しいですが、集団の美しさは格別

です。その調和はみごとなものです。移りゆく日本の季節の中で人々に希望と活力を与えてくれる花です。

植草学園は平成24年で創立108年となりました。多くの卒業生の方々は全国各地で、又外国でそれぞれ一生懸命生活しておられます。

長い間には楽しく充実した日々もありましたが、こころならずも困難に遭遇したり、又苦しい被災を経験されたりした方もおられるのではないかでしょうか。どうか人生の折々に、母校に卒業生の平安を祈るかのように咲き続ける桜を思い浮かべ、力強くお幸せに生きてください。

私は改めて桜の咲く頃は桜と共に卒業生、在校生そして植草学園に集う全ての方々の平安を祈る季節とします。



寄付のご報告とお願い

平成24年12月現在でご寄付いただきました合計金額は47,000円です。
ここに寄付された皆様のご芳名を記載いたします。

内訳

10口	… 3名
5口	… 2名
3口	… 2名
1口	… 1名

ご寄付いただいた皆様

5期	… 宇井 訓子さん	5期	… 小室 京子さん
5期	… 阿津 市子さん	5期	… 鵜沢 恵子さん
6期	… 石川 明子さん	14期	… 横山ひろみさん
14期	… 小笠原晴代さん	34期	… 関 美南さん

一口：1,000円（何口でも結構です）

郵便振替口座にてお振込みください。

口座記入番号：00270-9-140638

加入者名：植草幼稚教育専門学校同窓会

ご依頼人：会員の方の住所、○期、○組、氏名、電話番号をご記入ください。

通信欄：寄付金の口数を明記（例：寄付金3口）してください。



今回の第3号は、希望制になってから初めての発送となります。二度にわたって希望の有無を教えていただき、本当にありがとうございます。返信葉書の中には「会報楽しみにしております」「いつもありがとうございます」等の一言も見られ、心が温まりとても励まされました。これからも『さくら会会報』『同窓会』と皆様とのつながりを大事にして第4号、第5号と作っていきます。

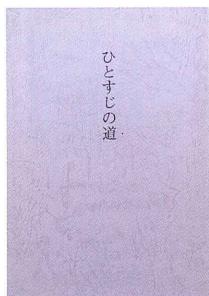
植草学園さくら会会報編集副委員長 鈴木香菜 編集委員 出木麻子、小笠原晴代、石川明子

植草文化服装専門学校、 植草家政高等専修学校同窓生より

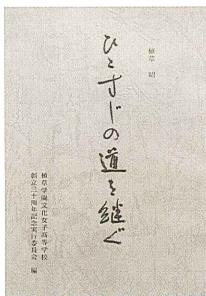
植草文化服装専門学校 岡田 泰子

この度、植草学園前副理事長の植草範子先生は、永年にわたる私学教育の発展の為に尽力されたご功績により平成24年6月全国私学振興会連合会会長より表彰を受けられました。全国で6人の受賞者の中の1人です。誠におめでとうございました。

前理事長植草あう先生発刊の「ひとすじの道」現理事長植草昭先生発刊の「ひとすじの道を継ぐ」に続き、平成24年2月植草範子先生は、「ひとすじの道をたどる」を自費出版されました。これは、千葉市女性センター（現在は千葉市男女共同参画センターに名称変更）からの要請により、センター開設10周年記念の企画として「千葉市の女性史～裁縫から始めた女性たち～」というテーマで、“植草学園のこと・植草家三代にわたる女性のこと・植草範子先生自らの今日までの道のりについて”半年にわたる講座を担当さ



植草あう先生



植草昭先生



植草範子先生

れ、その講義の内容をまとめられたものです。学園の歴史とともに、この道ひとすじ、まさに頭のさがる思いです。

前植草文化服装専門学校教頭の早川武子先生が平成24年12月に米寿を迎えられました。誠におめでとうございました。

かつての教職員が集まり、植草範子先生・早川武子先生をお迎えして祝賀の会を開きました。とてもなごやかな楽しい会でした。

植草学園の益々のご発展と会員皆様のご健勝をお祈り申し上げます。



左から5人目 植草範子先生、同6人目 早川武子先生

植草家政高等専修学校 松本 珠代

昭和35年4月に植草家政高等専修学校に入学、2年後には植草文化服装専門学校的高等科に編入、卒業後は事務職員として1年お世話になりました。

退職後、男子の第一礼装のモーニングとウエディングドレスを作製し、前理事長の植草あう先生にも御出席いただき結婚しました。50年近い月日が流れ、学園の時代に即応した目覚ましい発展ぶりを目の当たりにしておりまし

た折、植草学園さくら会の理事にとのお話をいただき、平成24年4月より仲間入りさせていただきました。

現在でも家業を続けながら旅行、日本赤十字社や地域のボランティアと忙しい毎日で理事会も欠席しがちですが、再び学園と係わりを持つ事が出来たことに誇りを持っています。

平成24年度 植草学園さくら会役員

- 顧問 植草学園理事長 植草学園副理事長兼事務局長
元植草幼稚教育専門学校長 植草学園附属高等学校長
植草学園短期大学長 植草学園大学長
- 会長 小林鶴枝
- 副会長 石川明子 信田一美 金久保利一 西川嘉人
- 監事 岡田泰子 出木麻子
- 理事 齊藤京子 早川佐知子 松本珠代 鈴木朱美 小笠原晴代
竹村美紀 岡田眞貴子 坂下紀子 宮内美佳 池田まどか
鏡味智
- 合同企画委員長 小菅秀美
- 会報編集委員長 木村昌代
- ホームページ委員長 石川弘幸
- 代議員 各校より計18名
- 大・短同窓会協力委員会 根本薰雄 古川繁子 黒田静江 遠藤隆志 多田昌代 佐藤将朗 宮坂智哉
- 事務局 キャリア支援課

(C) 植草学園さくら会ホームページ

植草学園大学、植草学園短期大学のホームページメニューから、「植草学園さくら会(連合同窓会)」をクリックし、植草学園同窓会のホームページにお入りください。

URL <http://www.uekusa.ac.jp/>